



奈良・人と自然の会

〈わたしたちは大和の自然を愛します〉



私の自然観

川井 秀夫

少年の頃、大淀川の河畔に育った私は、ワンドで小魚を採り、近くの小川にトンボを追ひ、公園では枯木に巣くう玉虫を採る日々を過ごし、自然に対する原風景として、永く心に沈殿していた様に思う。

退職後、シニア自然大学の門を叩く。一年の教科を終え、植物・野鳥・昆虫・水性生物へと専門分野へ仲間たちが散って行くなか、自然への憧憬が増し、不思議さに感動しつつも、この万物の声なき声が、私の少年期のそれとは違うのじゃないのかと訴えている様に思えてくる。その頃、カーソンの「沈黙の春」に共感し、自然を楽しむ前に地球環境問題の実態を知りたくなり、人間の愚かさ、大自然のメカニズムに驚きと虚しさを感じたものである。

98'年、京都議定書。いわゆるCUP3の現場へ仲間たちとデモンストレーションに参加し、地球温暖化を核とした環境問題を模索し、研究成果を内外に色々な形で発信する様になる。

自然とは何か。人間も紛れなく自然(不自然な人間も多いが)の産物だが、森羅万象生きとし生ける者すべての造化は「天然」と考える。勿論人間以外である。

果てしなく続く森林破壊、化学物質の濫用など、様々な地球環境問題を引き起こす。風物詩であった黄砂に有害物質が、気候変動が起こす大型災害が、越前クラゲの大量発生が、鯨・アザラシの迷走が、昆虫の生態変化が、またミツバチの減少、アメリカでは大量死の報道があり、メカニズムがすべて解明されてはいないが、人間の所業のツケであろうかと。

『共存』『共生』とは頷ける言葉だが、私の造語を借りれば、天然の生態から教えられる『教生』であり、万物から享受する『享生』だと考える。何故なら言葉の根源に人間たちの天然に対する謙虚な哲学が読み取れないからである。

【閑話休題】難しい事は置くとして、当会の社会活動も、国有林の整備作業から県有林の里山整備に移り、着々と成果を挙げ、ご同慶の至りである。小さな一歩ではあるが、後世に残る名もなき人たちの天然に対する優しさの証左として、集積の歴史を残したいと思っている。

「一粒の麦が豊かな実りをもたらすためには、死んで大地に落ちなければならない。」

ヨハネ伝の有名な一節だが、人それぞれの解釈があるにせよ、私に照らせば、文明社会に耽溺した時代から、今は異なる人間の豊かな生き方を発見した事になるのでしょうか。

この言葉には自己犠牲が説かれ、作り上げたものを無自覚に愛するのではなく、遠くへ置くと言う思想がある。

アスファルト社会の均質化した中で、無意識の大地に、己に何かを課す余生を送りたいと思う。「人間は大自然に畏敬と謙虚であれ」これが私の自然観の帰結である。



5月例会報告 宇陀・ハツ房スギから青蓮寺へ

5月26日(火) 参加者 16名

担当 弓場厚次 高橋弘志

菟田野 國の始まり大和の國、都(コオリ)の始まり宇陀郡、宇陀の始まり「うたの」から

五月晴の榛原駅より菟田野の棚田は田植えも終わった、美しい田園風景が広がる中をバスで佐倉峠に向い、桜実神社では「ハツ房スギ」を観察。境内には満開の真っ白なシライトソウを鑑賞後、「カエデ園場」へ。場長の矢野先生の案内で春モミジ・カエデの見学と解説を頂き、参加者全員が大満足。昼食後はタムシバの葉を噛みながら中将姫が建立した『日張山青蓮寺』に到着。女性群は本堂の中将姫と対峙された後帰路につき、近鉄榛原駅にて午後4時前に散会する。来春は四月の春モミジやコブシの花を親に行きたいものです。 [弓場 記]

5月度例会報告 ハツ房スギ(国指定天然記念物)から青蓮寺へ

5月26日 五月晴れに恵まれ、近鉄榛原駅に参加者16名。バスにて桜実神社へ。配布頂いた案内地図、大和の巨木、カエデ等のレジメに眼を通しながら里道を辿り、桜実神社に到着。境内には推定樹齢2000年のスギの凄まじいまでの樹形を目にし、触れては手から霊力?を戴けた思いでした。続いて菟田野のカエデ園場へ。1200種 3000本のピンクや赤や緑等の彩りに、スゴイの言葉しか出てきません。世界のメープルに魅せられて時間の過ぎるのを忘れかけそうでした。昼食時間にもなり、また来春のメープルを楽しみにと、園場を辞しました。シライトソウ タツナミソウ ヒトリシズカ フタリシズカ カラマツソウ マツカゼソウ ハルジオン ヒメジオン ウマノアシガタの可憐な花が、そしてウツギ(コガク ハコネ ヤブ)の花があちら、こちらにと新緑の里山に咲き乱れています。昼食後、カノコソウ キキョウ フジバカマなどの絶滅危惧種の解説をいただき、高橋さんから手渡しの葉を口にしました。昔は農作業時に親は子供におやつ代わりに食べさせたタムシバの葉をあまーい甘い味わいつつ山紫水明の中将姫ゆかりの日張山へ汗をかきかき上がりました。世阿弥の謡曲「雲雀山」の世界に浸るべく、クリンソウやカザグルマ等の咲く清らかな尼寺で一休憩。神武天皇の古事の立て札も目につく素晴らしい菟田野の里巡りの最後は、無洗ガヤの巨樹を観察。今日の観察会は自然種の植物の優しさを堪能し感激の一日でした。 野田 陽子

5月例会

ハツ房杉から青蓮寺

岸谷 和代

風薫る五月。五月晴れの下、桜実神社に向かうバスの中には、花背で出会った九輪草の話題で持切り。田園風景広がる山里は春の野の花が咲き、道すがら数々の花の名前が飛び交う。社の入り口でヒトリシズカ・山タツナミ草・笹ユリ等に混じって白糸草の小さな群落が迎えてくれる。高台にあるハツ房杉は樹齢2000年全周囲13.5m大小8本の幹が株状をなし、互いに絡み合いながらヤマタノオロチの如く、うねうねと動き出しそうな迫りに圧倒される。しかし、裏手に回れば老衰否めず人手による手当が痛々しい姿。巨樹に守られて咲く花々の中にブラシの様な白い花穂を付ける白糸草に何故か惹かれてならない。カエデ園場への道中は植物観察教室の様で、自然入門の入り口に立つ私はメモを取るのに忙しかった。万葉歌人達が色々な形で詠んだモミジは芽吹きから若葉まで刻々と変化する4・5月が最も魅力的と聞き、驚くも納得する。ピンク・赤・黄色・萌黄色と実に美しい新芽も酸性雨に弱く保護をするのに苦労されているとか。大和に因んだ名前も多く竜田・秋篠…ならやま もありKAWAII-GEISYAの横文字まで。希少種の屋久島長尾カエデの説明を受け、改めてカエデ科カエデ属の奥の深さと魅力知ることとなった。歌碑“なかなか山のおくこそ住みよけれ 草木は人のさがをいわねば”(中将姫) 標高595mの日張山の中腹にひっそりと佇む青蓮寺。童人形を思わせるかわいなお堂に安置された姫の形像にそっと手を合わせ、運命に翻弄され続けた姫に思いをはせ山を下りました。

奇しくもお堂の裏庭には、九輪草が数本ひっそりと咲き誇っておりました。

6月10日、午前8:00、奈良 高の原から38席を埋めた参加者の思いを乗せ、窓外に麦秋・青田の風景を目に入れながら近江路から加賀路を疾駆。旅の始まりである。

今回は三井物産 事業財団の助成金の援助を得て、「里山再生を考える」をテーマに金沢大学 客員教授 宇野 文夫 氏のご好意により、氏の活動現場とジョイントした形で巡訪する事となる。

初日は予定通り金沢大学キャンパスに到着。ディズニーランドの四倍に匹敵する自然の地形に点在する学舎に、まず驚きである。古民家を改修した「角間の里」の館で、氏のレクチャーを受ける。自然に対する思い、里山・里海再生の情熱にただただ感服。次世代の学生達も恵まれた環境の中で、生態調査・研究から実践へと指導力を発揮されている。

我々のなら山とは次元が違うが、奈良は奈良、能登は能登であり、基本姿勢には変わりなく、心強いメッセージを頂く。

二日目。各所の印象を点描しておこう。

「珠州港の魚河岸」 梅雨の走り。ひととき夏の雨。イカの漁場として有名とか。セリ市の現場を見る。ピリッと張りつめた空気の中に、独特の掛声が交錯する。男の世界である。水揚げの河岸に旋回するカモメ。物欲しげの姿態が、私にはむしろ興味があつた。

「里山里海自然学校」文科省の科学振興の一環として、地域再生人材創出の拠点として大学教授・地元の経験者がスタッフとしてマイスター講座を運営されている。

過疎化した地域再生。農林業・水産の活性化の救世主となるか、試金石と見る。

「やすらぎの里 金蔵の棚田」棚田日本百選に選ばれた景勝地。地元の長老 井池 光夫氏（郷土史家 81才。元 海軍特攻予備兵）の語り部に心打たれる。この辺境の地では高齢化・少子化が著しく、将来の慨嘆の思いが伝わってくる。タメ池の水が一夜に干上がる「竜 伝説」の話も印象的。青田の姿、畦の整備、この労力は老人力と思うと、美しくも貴く、悲しくもある。

「輪島の千枚田」日本海の白波と幾何学的な田の緑が素晴らしい。オーナー制度により維持管理されているが、後背の山腹は荒れ放題とか。ここにも自然美の滅びの姿が目に入る。小泉 元首相 来県時の写真ポスターが虚しく見えた。

少しハードではありましたが、金沢大学 教授陣のサポートもあり、有意義な二日間であったと思う。私はこの大自然が再生が滅びかと問はれれば、もっと大きな力が動かなければ滅びであろうと、そんな印象をもった旅でした。最後に岩田 幹事、弓場 幹事に謝意を申し上げます。◆ お断り 車中のクイズEに吉村さつき さんが欠落しておりました。

<参加者感想の一部>

★ 研修ツアーの講義で、私達の「奈良・人と自然の会」の活動と重ね合わせて、地道な活動であること。生物多様性の再生、その土地の歴史、文化全部が関係してくること納得しました。里山から得られる利益があってこそ、人が入りそして里山が整備され、そのことが地域に経済的益をもたらすという循環が大切だと思いました。 <山中笙子>

☆ 奥能登の限界集落を何とか復元させ、活性化によって後生への後継者を生み出そうと努力している大学、集落の方々の実態が把握できた体験ツアーで有意義な旅だった。比べて平城山の現場は都心に近く労働ボランティアが集まりやすいロケーションと思う。今後は特色づくり
う！充実し

★能登、里山
感心しました。
子供の頃遊
会い懐かしく、
感激の旅でし
日本がある。
するプロジェ
孫たちの時代
ていることを祈



参加させていただき有難うございました。とても有意義な時間でした。感謝。感謝!

<石津とよ子>

☆ 若人が山奥の里で地道に田園や植物、エコ肥料等の研究に意欲を燃やし頑張っておられるパワーには感動しました。 <井上康子>

★ 私はカメラ目線で参加させていただきました。里山は絵画目線で撮りました。魚市場のセリはスナップに最適でした。夜の軍艦島はISO3600で撮影しました。どれも面白い写真になっています。例会で会員の皆さんに見てもらおうのが楽しみです。こんな良い機会を有難うございました。

<川岸次郎>

<川岸次郎>

☆ 梅雨入りも能登路の風でどこへやら、海の幸溢れるばかりの宿の夕餉

<和田啓志>

よろしく

知らないことを知る喜び

宇野 利子

山歩きの時に会った草花の名前を知りたいと思った事が、自然を観察するきっかけになりました。大阪育ちの私の子供の頃は、自然の中であたりまえに遊びまわっていた事が、今では里山の風景がとても懐かしく、心が癒される思いがして、今さらながら自然の素晴らしさに驚きと感動をしております。

自然大学で学んだたったの1年ではありましたが、少しでも自然環境を振り返る事が出来た様に思います。

知らない事を知れる喜びを1つ1つ学び重ね、何か自分に出来る事を、役立てて行きたいと思っております。

どうぞよろしくお願い致します。



「奈良・人と自然の会」との出会い

安川和男

私の故郷は、兵庫県西宮市の阪神タイガースの本拠地、又高校野球でもよく知られている、甲子園球場の近くです。甲子園球場でナイターがある時は、夜空が皓皓と明るく、歓声がよく聴こえました。学生時代迄はそこに住んでいました。その後サラリーマン生活に入り、大阪に住むことになり、停年近くまでおりました。年をとるにつれ自然との付き合いを望むようになり、歴史と自然の宝庫の奈良に移住してきました。

奈良に来て歴史と自然に生かされる事があればと思い、森林環境の技術習得コース研修、森林保全管理講習、ウッドブロック作製講習、造園アシスタント講習、緑地保全管理講習、等を受講し、自然に対して自分自身が何か役に立つものがないか探しておりました。そんな時「県民だより」奈良の広報誌に、歴史的風土の環境保全の為、景観形成ボランティアの公募がありました。個人ではなく、NPO、又は団体でないと応募できないのでした。県の担当課の風致景観課に電話をしてボランティア「奈良・人と自然の会」の阿部会長を紹介して頂きました。早速阿部会長に電話をし、会の概要説明と会報誌を送って頂きました。この会が自分に一番合っていると思えましたので、入会を決めました。自分自身何が出来るかわかりませんが、会員の皆様の仲間入りが出来て大変嬉しく思います。頑張りますので宜しくお願い申し上げます。

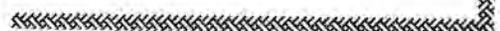
自然大学に入る切っ掛け

原田典二 (はらだつねじ)

一昨年の12月、娘の顔を見たくて、南米のチリ共和国に行った。娘夫婦の案内で、パタゴニアへ8泊9日の旅行、コースは真っ白いアンデス山脈を空路で南下、チリ最南端の都市プンタアレナスに到着。バスにてペンギンの営巣地見学後、パイネ国立公園の中にあるホテルに向かった。ホテル・ラス・トーレスはパイネ山の麓にあり、トーレス・デル・パイネ(タワーのような三峰の岩山)を背景に、山と氷河と湖を廻るいろいろのコースがあるトレッキングと乗馬の拠点でした。

真っ青な空に三峰の岩山、その麓の残雪をアイゼンで踏み残した記憶は、生涯忘れられない思い出だ。パイネで2泊後、国境を越えてアルゼンチンのエル・カラファテへバスにて移動。バスの車窓からは、グアナコ(ラクダの一種)やニヤンドウ(ダチョウの小型)を見たり、昔テレビで見た「ローハイド」さながらの数百頭の牛の移動を目撃した。

エル・カラファテはアンデスの氷河〔ロス・グラシアス(氷河)国立公園〕の拠点、一番有名なペリト・モレノ氷河は全長35 Km、先端部の幅5 Km、高さ60m。氷河の崩落の瞬間を写真撮影するのはとても困難であった。最後はマゼラン海峡より南のフエゴ島へ行った。この島の最南端にあるピーグル水道にて遊覧船に乗り、10島余りの島巡りをした。小島にはウミネコ、ウミウ、カモメ、ペンギン、アホウドリ等の海鳥とオットセイの大型種オタリアが島を覆いつくしていた。この9日間に展開した風景、自然の在り様は表現力の貧弱な私には素晴らしい一言であった。この旅行の3ヶ月後シニア自然大学の門を叩く私がいた。



幹事に就任して

塩本勝也

新幹事です

全く意外な成行きで、この総会で幹事に選任頂いた。ほんの駆け出し者で本会の趣旨を正しく理解も出来ぬままである。6月2日の幹事会に出席してみて、本当にエライ役を仰せつかった事に気が付き後悔している。

本会への参加の目的は、65歳までに故郷で百姓の真似事でも出来るような体力と技能をつくることである。特に「ならやま里山林プロジェクト」が気に入って活動している。

故郷を離れてもう半世紀近くになり、18歳までの山仕事、農作業の経験(?)が役立かどうかだ。自分のガキの頃の経験を、孫たちの世代に山や田畑の作業や遊びを通して、少

しでも体験させてやれればと思っている。

幹事の役割で「ピオトープ」の担当となってまたまた驚いている。全くの無知故、先達のご指導の下「人と自然の会」のメインシンボルゾーンが構築できるように微力ながら邁進したい。皆様の絶大なるご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

心がまえ

寺田 孝

「ならやま」の活動を楽しく、できたら有意義にする方法。私は、三つのことを「心がまえ」としています。

一つ目は、『骨身を惜しまず、身体を動かすこと』。— 農林作業である里山活動は、身体を動かさずに出来ることは一つもないですね。汗をかくことは爽快。また「ならやまフィールド」が日一日、気持ちの良い空間に変貌していく達成感の喜びは、肉体作業の中から生まれます。

二つ目は、『自分から積極的に、自主的に作業を見つけていく』。— 日々の作業の役割分担は果たさなければなりません、手が空いたら積極的・自主的に他の作業を見つける。何事であれ、自分の意思でやることで参画の気持ちが高まります。

三つ目は、『ねばり強く自然の様々なことを学習していく』。— 植物、動物が満ち溢れる自然の姿は誠に幅広い。このことは自然大学在学中以来、痛感しています。木や草、花、昆虫、鳥などの名前や生態を覚えていこうという意欲を持続すること。移り変わる春夏秋冬の姿をいち早くキャッチできることは、日々の作業に潤いを与えてくれます。

他にも色々あろうかと思いますが、私の「心がまえ」は、まずこの三つです。



よろしく申し上げます

菊川年明

国家公務員32年、会社勤務4年、家裁調停委員・参与員15年というのが私の経歴で、今年1月からはボランティアだけが仕事になりました。

私が少年の頃は昆虫採集がたいへん盛んで、私も昆虫少年になり、高校を卒業するまでムシを追いかけていました。その後は採集こそしないものの昆虫には興味を持ち続け、また、彼らを介して自然に親しむようにしておりました。

会社を退いてからは非常勤の生活になりましたので、勤務のない日はカメラを提げて昆虫の写真を撮って歩く日が多くなりました。私の昆虫写真はカメラによる昆虫採集という感覚によるもので、全くの記録写真です。

昨年春のある日、黒髪山の一隅で本会に関係する方に出会い、それを機縁に会員に加えていただきました。その結果、今まで以上に里山に親しめるようになり喜んでます。

このほど幹事にご推挙くださいましたが、さらなるご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

おんこ

ならやまプロジェクト・レポート 21年6月

5月23日(土) 晴 タマネギ収穫 サツマイモ植付け 参加者27名

- ・ 全員でタマネギの収穫。今年はタマネギが太る4月にベト病が発生したため、昨年の6割程度の作柄でした。形も不揃いでしたが、苦労して育てた有機・無農薬栽培の作物とて、各自30個程度を持ち帰り頂きました。ただ、生食用の紫タマネギは、甘くて辛味が少ない佳品との評判を頂き、担当はややホッとしたことでした。
- ・ サツマイモは好評品種のナルトキントキ400本を植付ける。秋には、会員家族芋掘り大会、芋掘り公開イベント、黒髪山自然塾の行事も予定されており、一本一本丁寧に植える。また、今年から石油製品の黒マルチをやめ、竹チップのマルチに切り替える。里山で刈り取った笹や竹を活用したエコサイクルの一つというわけです。タツプリ灌水して完了。
- ・ 刈り笹のチップ化作業は3回目。暑さとはほこりの中の厳しい作業でしたが京で無事完了となりました。ご協力いただいたメンバーの皆様、本当にご苦労様でした。 午後3時解散

6月4日(木) 晴 佐保台小 田植え実習 ニンニク収穫 菜種の脱穀 参加者47名

- ・ 佐保台小学校5年生が授業の一環として、ならやまで田植えの実習を体験しました。昨年までの荒地を、鈴木末一さんの指導で、草刈り、耕起、畦作り、水張り、代掻きと順次整備し、水田に仕立てたものです。生徒は11人、おそろいの紅たすきもかいがいしく、菅ての早乙女の皆さんと一緒に、泥んこに足を取られながら始めての田植えを楽しんでいました。
- ・ 菜の花プロジェクトでは、終日、菜種の脱穀。乾燥させた菜種の束を棒でたたくという原始的な方法が意外と効率的です。殻と種は、今では珍しい唐箕で篩い分けられました。田植え実習に参加していた小学生も唐箕を体験し喜んでいました。
- ・ ニンニクは、土作りからの努力が実って、青森ホワイト種も中国種もなかなかの出来栄え。特に青森ホワイト種は、来年用の種球もなくなるほどの人気で引き取られました。
- ・ ならやまの入口付近のJR用地は、草が伸びて藪状になって景観上も見苦しいので、改善方申入れたところ、早速、草刈していただきました。迅速な対応に敬意を表したいと思います。

午後3時30分解散

6月8日(月) 野鳥観察の日 参加者6名

- ・ ホトトギス、キビタキの声が聞こえました。

6月16日(火) 晴 ジャガイモ収穫 B地区林地整備 参加者22名

- ・ 梅雨の晴れ間を利用して、全員でジャガイモを掘りあげる。メイクイン、キタアカリ、ダンシャク、インカのめざめの4種類。サイズは不揃いでも、とれとれの新ジャガは旨いよと、夜のビールを楽しみに各々で持ち帰りました。今年の反省点は、畝作りの段階で、根張りに必要な深さが確保されなかったこと。やはり最初が肝心。来年、再チャレンジします。
- ・ 昼食には、採れたばかりのジャガイモ、タマネギ、ニンニクがタツプリ入ったカレーが出ました。皆さん二度三度とお代わりをして、ならやまの有機野菜の味を堪能していました。
- ・ 環境・景観グループと里山グループが、ならやま会館前のB地区の林地の草刈りをおこないました。

午後3時解散

6月18日(木) ならやま山の日 参加者30名 ロープ・ワーク研修

観察路整備 シイタケホダ木の手入れ 植生調査準備

- ・ ロープ・ワークは山の作業に不可欠な技能で、研修の希望の多かったもの。この度、境さんに講師をお願いして実施しましたが、予想を超える参加者に準備したロープが足りない程。会場の学びの森は、爽やかな風が吹き抜けて快適。参加者は熱心に説明を聞き、実技に取り組んでいました。今回は前半の部で、後半は来月の山の日に実施いたします。
- ・ 今日の山作業は、ベテラン組と初心者組に分かれて、経験に応じて、学びの森周辺の伐採樹木の整理、観察路の危険木の処理、観察路の整備を実施しました。
- ・ 3月に菌打ちしたホダ木は、菌糸が回るよう積上げていますが、今回は、これを一本ずつ柵状に立てる作業。早ければ来春から椎茸が顔をのぞかせるはず。どうぞご期待下さい。
- ・ 8月から始まるシニア自然大学の教育実習の受け入れ準備として、教育グループと里山グループは植生調査区域の選定と縄張りを実施しました。

午後3時30分解散

(ならやまプロジェクト 古川祐司 記)



ならやま初めての田植え！
(大喜びで苗を植える子供たち)



“イシガケチョウ出現”

菊川年明

ならやまBCからあまり遠くないところに、イシガケチョウが現れました。その場所は磐之媛陵の北端を少し西へ行った歌姫集落のはずれで、5月25日のことです。

このチョウは、従来は紀伊半島南端部と四国、九州以南にだけいたものですが、近年は棲息域を拡げ、奈良県下では生駒山から葛城山に至る山脈の山麓に沿って棲息していることが伝えられていました。

幼虫の食餌はイヌビワ、イチジクなどですので、かねがねイヌビワの木が少しまとまって生えている前記の場所付近でイシガケチョウが見つかるかもしれないという淡い期待感があり、ときどき見に行っていたという経緯があります。

このたびのイシガケチョウについて橿原市昆虫館へ問い合わせましたところ、奈良市内での棲息状況は不明ということで情報は無い模様でした。



(写真のイシガケチョウは頭部を下にして止まっています。)

ならやまの昆虫……………夏

菊川年明

本格的な夏がやってきました。夏はムシたちの季節です。子供たちに人気のある昆虫が続々と現れます。その王者はなんと言ってもクワガタムシやカブトムシでしょう。ならやまで見られる主なクワガタムシはミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタです。昨年の「ならやまで遊ぼう」の昆虫観察ではりっぱなミヤマクワガタとコクワガタがいて、子供たちを喜ばせました。

このうちコクワガタは成虫で越冬し、2年ないし3年くらい生き続けるようです。今年早春にコナラの朽ち木からコクワガタの雄3頭、雌1頭を見つけました。オオクワガタやヒラタクワガタもいるとすれば成虫で越冬するクワガタムシです。

クワガタムシ類やカブトムシがやってくるのは主にクヌギやコナラの樹液の出ているところです。樹液は発酵してお酒のようになっているようで、一種独特の香りを辺りに放っています。このような樹液の出ているところを「昆虫酒場」と呼んでいる専門家もいます。このような場所にはカナブン、アオカナブン、シロテンハナムグリなどの甲虫や、ゴマダラチョウ、コムラサキ、ルリタテハ、サトキマダラヒカゲなどのチョウなども集まってきますが、また、恐ろしいスズメバチ類も来ていますので、観察の際には注意が必要です。

夏のセミもニイニイゼミを皮切りに、クマゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ときにはミンミンゼミの音が聞かれます。お盆の頃になるとツクツクボウシが鳴き出します。このほか、夏の半ば過ぎからアカマツの林でチツチゼミというミニサイズのセミが鳴き出し、11月頃まで声が聞かれます。鳴き声はその名のとおり「チツ・チツ」というか細かい声ですからよほど注意して聞かないとわかりません。それに、とてもセミの鳴き声とは思えない鳴き方です。このセミは他のセミの鳴き声が絶えてからの方がわかりよいので、9月中旬以降にアカマツの木のあるところで注意して聞いてみてください。去年は鳥観の丘付近でも鳴いていました。

オニヤンマ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、コシアキトンボ、チョウトンボなどのヤンマ・トンボ類も出そろい、空を舞ったり、行き来したりしてにぎやかになります。そのうちにアキアカネナド数種の赤トンボも現れます。

草原ではキリギリスが鳴き出し、トノサマバッタも成虫になって勇姿を現します。夏の後半になるとエンマコオロギの音が各所で聞かれ、マツムシの「チンチロリン」、スズムシの「リーン・リーン」が聞かれることもあります。

昆虫の観察は、一般的には天気の良い日の午前11時頃までがよいようです。



(写真はクヌギの樹液酒場によく来るゴマダラチョウ)

ならやま里山林花だより

林 令子

6月4日(土) ツルアリドウシの大群落が2か所ありました。

野ではメキシコマンネングサ、ツルアリドウシ、ニガナ、ホタルブクロ、ドクダミ、ユキノシタ、クララ、トキワツユクサが 山林にはソヨゴ、ネジキが 花畑にはノカンゾウ、キキョウ、グラジオラス、シモツケ、フジウツギが花を咲かせていました。又、ミツバアケビ、ウメ、マグワ、スイカズラ、コバノガマズミ、ウワミズザクラ、ズミ、ヒサカキ、には果実が実っていました。



可愛いキツツキ コゲラ

小田 久美子

ほぼスズメ大のこの鳥は、1980年代に都会へ進出し身近な鳥になりました。案外人をおそれず木の廻りを「ギーツ」と鳴いて回転しながら上がって行きます。冬はシジュウカラなどのカラ類と混群して、最後の締めをするようにゆっくり飛んで行きます。英名を Japanese Pygmy Woodpecker といえは納得ですね。先日、主人が死んだコゲラを持ち帰りました。直前に窓ガラスにぶつかったのかまだ暖かかったようです。写真を撮らせてもらって我が家のブンチョウのお墓に入れてやりました。



自然俳句欄

風薫る八幹の杉宇陀郡

秀 夫

5月例会。国天然記念物。ハツ房杉の異形にびっくり。
宇陀の山里を駆け巡る。山野草の珍種に感動のひとつき。

『モミジ圃場』日焼けの主の得意顔 秀 夫

カエデ・モミジの類は世界に4000種。春から紅葉する異種も多いとか。目からウロコが落ちる。



能登への追憶と哀愁

谷川萬太郎

命脈守る棚田の水脈にこの身を置く千枝田 水面は照らす鏡のように輝いて
眩しく

鮮やかな空に恵みを受けた涼風に 潮騒が零れた白い歯を覗かせ乍ら遠く
で微笑む

里海の匂いに誘われトビが高く舞えば 恥ずかしげに薄雲もいつのまにか姿
を隠す

頬に季節の予感がさ迷い漂いながら やがて夕映えに染まる叙情を偲ぶ
ように

山里深く人恋しさに忘れを草抱く自然よ また素直な心で君と会える日を追
い駆けて

ボランティア活動保険について

あつてはならない事、もし遭遇したらそれを補償するのが保険ですが、私達が加入して
いるボランティア活動保険とはどんな内容なのでしょうか。以下簡単にまとめます。

契約形態：当会「奈良・人と自然の会」が加入申込者となり、会員ひとりひとりを被保険
者として締結した団体契約保険です。入会と同時に納入会費より手続きを行っ
ています。

掛け金：ひとり260円（平成21年度）

扱い店：社会福祉法人奈良県社会福祉協議会

保険会社：日本興亜損害保険株式会社

補償期間：4月1日から翌年3月31日午後12時までの1年間。特に始まりは、扱い店
が所定の手続きと掛け金の入金を確認した翌日からとなります。

補償内容：活動中の事故によるケガや賠償保険で、学習会や会議、移動途中、日射病や熱
射病の熱中症、途上にあつた交通事故も含まれます。入院1日：7,000円 通院1
日：4,500円 死亡：1,418万円 後遺障害：1,418万円（限度額）賠償事故
5億円（限度額）。

対象：日本国内における「自発的な意思に基づき他人や社会に貢献する無償のボラン
ティア活動」を指します。従つて対象地区は奈良県に限定されず、国内全域で、
かつ「奈良・人と自然の会」の企画された行事のみならず、会を離れて、個人
が実施した上記の「」内の活動をも含みます。

非対象：自動車による事故は、加入者自身の障害のみが補償されますが、その他はすべ
て自動車保険の対象。野焼きや山焼き、チェーンソー使用も（免責事項）。頸部
症候群や腰痛も非対象です。

その他：グループ全体に起因する賠償責任は支払われません。あくまで一人一人の個人
です。

（平成21年6月再掲 文責 明石嘉一郎）



(斑鳩より) 6月16日大阪で46日早くヤマハギが咲いたそうです。奈良では6月4日法隆寺の裏山にヤマハギが咲いていました。どうして? (勝田)



* 原則：前日午後7時前のNHK天気予報で降水確率(午前) 60%以上の場合は中止 *

『ならやま里山林プロジェクト7・8月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

場所： 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 (JR 平城山駅下車徒歩10分)
—「ならやま会館」前の道路(ならやま大通り)の南側に広がる林地—
(案内図が入用の方は、問合せ先までご連絡下さい)

日時： 7月 8日(水) 一般活動日
7月13日(月) ならやま野鳥観察の日(小雨実施)
7月16日(木) ならやま山の日(里山整備)
7月25日(土) 公開イベント「里山の昆虫観察と自然工作」
7月31日(金) 雨天予備日
8月 6日(木) 一般活動日
8月10日(月) ならやま野鳥観察の日(小雨実施)
8月22日(土) 一般活動日(シニア自然大学教育実習生受入れ)
8月27日(木) ならやま山の日(里山整備)
8月31日(月) 雨天予備日

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通：①近鉄奈良駅 バス13乗場 8:23発 高の原行 (平日・土曜)
②近鉄高の原駅 バス1番乗場 8:32発 JR奈良行(平日)
8:30発 JR奈良行(土曜)

① ②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分

携行品： 弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地にて用意)

*環境保護のため、コップ・箸・椀は各自でご用意下さい。

活動内容：里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成
農事作業、除草、有機栽培のための堆肥作り、土作り

*自由活動日について：当面の間、火曜日、金曜日を「ならやま自由活動日」とします。活動される方は担当幹事までご連絡下さい。

*担当幹事 古川 小嶺 岩田

ならやまの野鳥観察 ~野鳥の会奈良支部・川瀬支部長のご指導による~

★日程： 7月13日(月) <毎月第2月曜日>

☆出発時間・場所：7時・ならやま駐車場

★小雨決行。判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。中止の時は次週に順延。

☆担当者：小田 菊川

<7月例会> **なら山、里山の夏** 6月会報記載の通り **7月2日**に行います

天気	集合場所	集合時刻	バス (近鉄奈良)	バス (高の原)	JR 奈良
好天の時	なら山フィールド	am10:00	⑬高の原行 8:58 発 平城大橋か佐保 台西口で下車	①JR 奈良駅行 9:00 発	大和路快速 加茂行 9:30 発 平城山下車
雨天の時	JR 平城山駅	pm1:00	12:21 発	12:10 発	12:52 発

担当：守口 京子

水本 遼真

*** 8月例会は休みとします。**

インタープリテーション入門講座のご案内

「自然の不思議や魅力を楽しく、わかり易く伝える活動」インタープリテーションを楽しく経験し、「校庭の自然観察会」など今後の活動に生かしていく『インタープリテーション入門講座』を、下記のとおり開催します。

関心のある方のご参加をお待ちしています。

○日 時：7月7日(火)10時～15時 (雨天でも開催)

○集合場所：ならやまフィールド(JR平城山駅下車徒歩10分)、10時

○連絡先：倉田 晃

小田 久美子

イベント参加スタッフ募集します!! 積極的な参加を、お待ちしております

<奈良・人と自然の会は奈良県山と森林の月間に協賛します>

***「なら森を育てる県民の集い」**

主催：奈良県、奈良県緑化推進協会

後援：奈良・人と自然の会他

日時：7月20日(月曜日祝日)「奈良県山の日・川の日」10:30～14:00

場所：大和郡山市矢田町「矢田山遊びの森」

内容：タケ切り体験、タケ細工(木鉄砲その他)

対象人員：100人程度予定(工作数)

募集人数：総数8名程度

交通手段：近鉄学園前南口から無料バスがでます

担当

小嶺



***「里山の昆虫観察と自然工作」** 当会の公開イベント・お手伝い下さい

主催：奈良・人と自然の会

後援：奈良市教育委員会

日時：7月25日(土) 午前10時～14時半

場所：なら山里山林ベースキャンプ

対象人員：親子で40人

昆虫観察

菊川・自然工作

小嶺

奈良市・「夏休み わくわく自然体験会」スタッフの募集

平成21年度「山と森林の月間」協賛イベントとして、奈良市の要請により、大和高原の里山で夏休みの一日を親子で楽しむ行事を開催します。

参加者に自然の感動と里山の楽しみをしてもらうため、奈良産こだわりの材料でバウムクーヘンをつくり、親子で間伐体験、水鉄砲づくり、自然観察などをプランニングしています。

参加者の募集は、奈良市広報誌、奈良県イベント案内チラシ等で参加者を公募(20家族・60人)します。ご協力いただけるスタッフを募集しています。

○イベント:「里山でバウムクーヘンを作り、自然工作、自然観察などを楽しもう！」

○日時:平成21年8月2日(日) 9:30~15:00

○場所:「奈良市・はなはなビレッジ」(奈良市荻町)

(道順:針ICよりR369北へ、「馬場」バス停を東へ、針広橋に「案内板」表示)

(連絡)岩田利秋

平成21年6月度幹事会議事録

日時:6月2日(火) 場所:奈良市中部公民館 司会:弓場 記録:水本

【報告事項】

- ① 会員数 121名(新人28名)
- ② 5月度例会 「ハッ房杉から青蓮寺」 参加者16名
- ③ ならやま里山プロジェクト:定例活動3回、臨時11回、鳥の日1回、参加者計111名

【確認事項】

- ① 「会報」発送業務について:幹事の負担分散を図るため一般会員にも援助を呼びかける。
- ② 6~9月の定例行事確認
 - ◆ならやま関連…6/4 一般(佐保台小5年生11人田植実習)、6/8 鳥の日、6/16 一般、6/18 山、6/30 予、7/8 一般、7/13 鳥の日、7/16 山、7/25 昆虫、7/31 予備
 - ◆例会…6/10・11「金沢・能登里山文化を訪ねる」39名参加確定、7/2 里山の夏、9/26(29) 赤埴の巨樹と仏隆寺
 - ◆7/7 インプリ講習、7/20 矢田山県民の集い、7/25 里山体験イベント、8/2 「山と森林の月間」協賛イベント「はなはなビレッジ」

【討議事項】*校庭自然観察会関係他。

編集担当:勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 阿部 和生

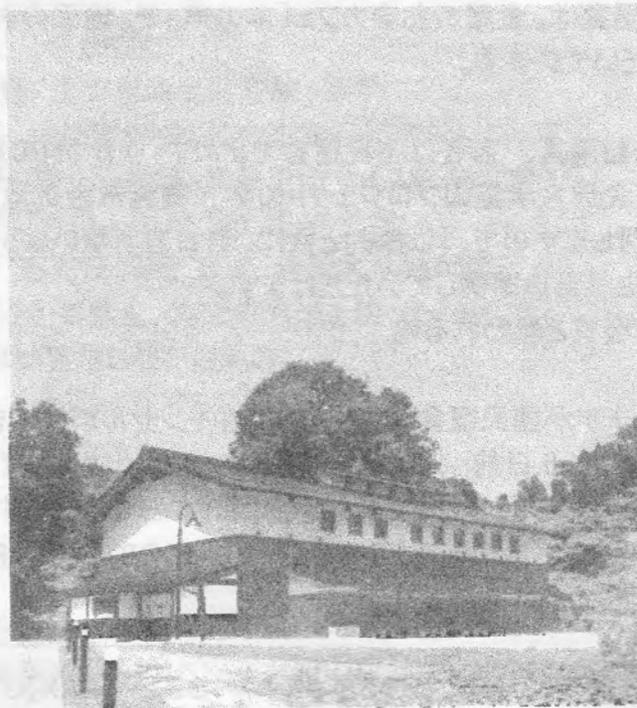
金沢・能登 里山文化を訪ねる

研修ツアーのしおり

平成 21 年 6 月 10 日(水)~11 日(木)

—金沢大学・角間の里、能登里山里海自然学校

「にほんの里 100 選」輪島市金蔵地区—



【金沢大学創立 50 周年記念館・「角間の里」】

奈良・人と自然の会

みなさんのご協力で意義のある研修を！

奈良・人と自然の会の活動に、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

このたびは「三井物産環境基金」の支援で、金沢大学 宇野文夫先生をはじめ里山里海自然学校、「にほんの里 100 選」輪島市金蔵地区の多くのみなさまのご協力で素晴らしい研修企画ができました。

今回の研修を機会に、研修参加のみなさまとの親睦と交流を深め、平城山の里山林景観形成活動がさらに飛躍発展することを期待します。

至らないこともあるかと存知ますが、みなさまの温かいご理解と積極的、自発的なご協力をお願いしまして意義ある思い出残る研修となりますよう祈念いたします。

奈良・人と自然の会

会長 阿部 和生
幹事 一同

ご協力をお願い

1. 会費の徴収について
宿舎で徴収させていただきますので、つり銭のいらぬようにお願いします。
2. 昼食、飲物等について
10日(水)、11日(木)の昼食、飲物、おやつ等は各人で行います。SAには適宜休憩します。
金沢大学には 13 時ごろには到着の予定をしています。長時間の停車は出来ないため、SAで購入して車内で食事するようにご協力ください。
但し、11 日(木)の昼食は、金蔵のお寺カフェ「木の声」で、地元のお米を使った「おにぎり定食」(800 円)を準備していただいています。
3. 持参していただく物
 - ・ 保険証コピー、筆記用具、宿舎は国民宿舎ですので「ゆかた」の準備はあります。
 - ・ 配付の「しおり」、「金沢大学里山プロジェクトの葉」、「輪島市金蔵地区の資料」のパンフを事前送付しますので、「しおり」と共に、当日忘れないように持参してください。
レジメ等は宇野先生が当日準備していただけます。
 - ・ 雨天対策など各人必要と思われる物
4. キャンセルについて
会費は当日、徴収しますが国民宿舎「のとじ荘」のキャンセル料はつぎのとおりです。
 - ・ 2週間前 10%、・ 5日前 30%、・ 前日 50%、・ 当日 100%となっております。直前のキャンセルは欠席の場合でもご負担をお願いする場合があります。
やむなく欠席されるときは、岩田まで 電話かFAXしてください。
5. 宿 舎
珠洲温泉「のとじ荘」
珠洲市宝立町鷺飼 1-30-1 【TEL】0768—84—1621 【FAX】0768—84—1620
6. 留守宅用日程表
1部送付しておきますのでご利用ください。

「金沢・能登 里山文化を訪ねる」研修日程表

6月10日(水)

- 8:10 近鉄・高の原駅前出発 (京阪宇治バスに乗車)
↓ (京奈和道—京滋BP—北陸道—金沢森本IC)
13:00 金沢大学 到着
13:30 金沢大学「角間の里」
14:30
↓ 講義「金沢・能登の里山文化と大学の関わり」
15:30 講師 宇野文夫地域連携コーディネーター・客員教授
15:40 バスで移動
↓ (途中、能登有料道路PAで休憩)
18:30 珠洲温泉「のとじ荘」到着

19:00
↓ 夕食
20:00
↓ ラウンジにて懇親会
※北野慎一助教授(奈良県出身)「能登の先端に住まれて3年、活動の現況など」
21:30
22:00 就寝

6月11日(木)

- 8:00 珠洲温泉「のとじ荘」出発
8:30 金沢大学「能登 里山里海自然学校」見学
※案内1 赤石 大輔 研究員「里山里海自然学校について」
※案内2 北野 慎一助教授「能登里山マイスターについて」
10:40 輪島市金蔵地区「にほんの里 100選」の見学
※案内 井池 光夫氏(郷土史家、金沢大学駐村研究員)
お寺カフェ「木の声」で昼食、地元のお米を使った「おにぎり定食」予約。
12:30 千枚田など簡単に見学しながら帰途。
↓ (金沢森本IC—北陸道—京滋BP—京奈和道)
20:00 高の原・木津 (到着予定)

緊急連絡先:(担当)

川井秀夫
岩田利秋



白米千枚田
ポケットパーク

輪島市・金蔵地区

里山里海
自然学校

珠洲温泉「のとし荘」

研修ツアーー能登路あんない